

茅ヶ崎市スポーツ少年団ティーボール大会野球規則 H23.9.18

小学3年生以下のチームを対象とする。グラブ、金属バットは公認道具を使い、ユニフォーム着用が原則である

守備選手は9人、3アウト制。試合は、6イニングス、試合時間は30分を超えて次のイニングに入らない

【球場施設】

内野は塁間18.3m、投手ライン迄は14.2m、守備ライン14.2m
特別ファールゾーン(本塁からインフィールド4.5mの範囲)
ボールデッドサークル(投手ラインを中心とした直径2m円ライン)
ホームランライン(左翼36m、中堅42m、右翼36m)

【使用球】

BB1400練習球(ゼット製)を使用

【バット】

通常使用しているバット又は主催者提供のバットとする。

【バッティングティー】

上下に伸縮でき、本塁ベース上に安定して置くことが出来る打撃ティー。

【用具・衣服】

各野球団体に規則に適合したグラブ、ミット、シューズを使用。
ユニフォームは統一したものが原則(混合チームは除く)。
ユニフォームがない場合、動きやすい服装(安全を考慮)とする。
背番号は必要である

【チーム編成】

成人の監督(責任者)1人とコーチは4人以内とする。
3年生以下で編成されたもの。選手は原則として20人以内。

【監督】

チームの運営、管理に責任を持つ成人、連絡責任者も兼ねるものとする。

【コーチ】

コーチは、成人でなくても良いが、指導力があるもので選手と違う服装が必要。

(攻撃の場合)

一塁・三塁側のコーチヤースボックスで選手に指示を与えるほか

1人は球審の横で打者を指導すると共に、投手より球を受け取り、球審へ手渡さねばならない。

(守備の場合)

2人以上がインフィールドに入り、捕球や送球にアドバイスにあたえることができる。インプレーのボールに触れてはならない。

【選手・選手交代】

9人で行なう。選手は交代しても復帰できる。

【審判】

4人制で行なう。(又は3人制でもよい)

該当外チームでおこなう。

(1塁側=球審・2塁、3塁側=1塁・3塁)

球審は、判定に最終的な権限を持つ。
球審はティーの上にボールを乗せるほか、本塁でのプレーが予測される場合、事前にティーを走者の進路外へ移動しなければならない。

【試合】

6イニングス又は時間は30分を超えて次のイニングに入らない。
(成立しているイニングで勝敗を決する)

打者9人一巡で攻守交代。(3アウトにならない場合)

同点の場合は引き分けとする。

【集合】

チームは試合開始時間の10分前にはグラウンドに集合しグラウンドの記録係に到着確認をする。

使用ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。

【試合開始】

事前に両チーム主将のジャンケンで攻守を決める。

守備側の選手が定位置につくと球審がボールをティーの上に置き「プレーボール」を宣言する。投手はこの後、投げる動作に入り、打者はその終了後にティーのボールを打つ。

【バッティング】

フルスウィングしなければならない。

【ファールボール】

野球のファールボールに次の3つをつけ加える。

- A) 打球がホームから4.5mのファールゾーン内にとまったとき。
- B) 打者がバットでティー台を打って、ボールが転がったとき。
- C) バント、ハーフスウィングしたとき。

又主審がフルスウィングと認めなかった場合。

【打撃】

参加選手全員が順番に打つ

【三振】

2ストライク後、ボールにバットが直接当たらない場合は三振とする。

【離塁】

ランナーはバッターがボールを打つまでは離塁してはならない。

審判が早いと認めたときはアウトとする。

【ボールデッド】

打撃によるプレーが終了し、ボールを**投手**が投手サークル内で確保又は投手がボールを確保後投手サークルに入った時点でボールデッドとなる。**(又は投手の体・グローブに触れた時)**

この時点で、走者は塁に触れていなければならない。

ボールデッドになった時点で走者が塁間にいるときは進塁できず、手前の塁に戻る。

ホームランラインをゴロで超えた場合は、打者は2塁まで進塁とする。

暴投等によりボールデッドラインを超えた場合はテイク2とする。

プレーが一段落したと球審が判断した時

【ヘルメット】

捕手は必ずヘルメット(両耳保護付)を着用して守備につく。

【攻守交代】

1イニングは3アウト制又は打者一巡(9人)で終わる。

(9人目最終バッターのアウトカウントは2アウトからとする)